

第4回前橋高校 Oxbridge 研修を引率して

群馬県立前橋高等学校 教諭 加藤 俊介

2015年に産声をあげたこの研修も今回で4回目となり、成熟・発展期を迎えたと言って良いと思います。前橋高校にとって4回目の研修、私自身にとっても海外引率4回目ということで、不思議な縁を感じていました。本校赴任1年目の私が、開催以来初の1年生のみが参加する研修を引率する、そんなことにも因縁めいたものを感じていました。

出発前、オックスフォードとケンブリッジを訪問すること以外の事は漠然としか分からず、ただ繰り返し耳にしたのは、この研修は「生き様研修」である、ということだけでした。出発当日を迎えるまでは、不安ばかりが募っていたのを覚えています。

帰国した今、全体を振り返って思うのは、この研修はやはり一言で言うとなると「生き様研修」であった、ということです。様々な側面からこの研修を振り返ってみたいと思います。

1. Survival English

今回もハートフォード・カレッジのクリス先生が彼らに何回も講義をしてくださいました。この講義は彼らにとって楽しいものであったようで、「日本で受ける授業とは違う視点での英語の話をしてくれて、勉強が楽しい」と言う生徒もいました。クリス先生からも彼らに対する賛辞をたくさんいただきました。

授業という作られた環境での、慣れた仲間との会話は概ね良好だったと思います。ただ、私が彼らにとって一番勉強になったと思うのは、日々の生活での会話です。イギリスである以上、日々の会話を英語で行わなければなりません。生活全般の面倒を見てくれる3人のオックスフォード生との会話、食事のちょっとした注文、買い物…、生徒達にとって全てが英会話の実践演習だったと思います。出発前の事前研修で生徒達に伝えたとおり、私は会話が通じないことに関して、彼らを決して助けませんでした。自分の英語力の無さを痛感しつつ、それでも何とか身振りや表情で自分の意志を伝えようともがく姿を見て、それこそが人間が生きていく様である、と感じました。人生は常に順風ばかりが吹いて、楽に生きていくものではない。日本では当たり前に行えることが海外に出たことで思うように行かない。それでも何とか自分の力で立ち向かっていくしかない。日本ではない環境を体験することの一番の意味がここにあるように思います。



2. 先人から学ぶ「生き様」



今回も、オックスフォードで学ぶ留学生4名（2名が日本人）、紅林秀和さんと岡本尚也さんというケンブリッジ卒の講師の方々、本校OBで、スイスで学ぶ朝倉亮さん、ロンドン大学で学ぶ日本人学生2名と、海外で学ぶことを選んだ多くの方々からお話を聞くことができました。経緯は様々ですし、一概に一般化などできませんが、共通していたことは、自分のなすべきこと、目指す方向がはっきりしているということと、非常に楽しそうに、生き生きとしているということでした。またここに1つの「生き様」を見たような気がしています。最終日、ロンドンのホテル

で、最終の振り返りを行った際、生徒に次のような趣旨の話をしました。「海外に出ることが全てではない。ただ、自分が求めるもの、なりたい自分になるための手段が、日本にはない場合、海外に出ることを躊躇うべきではない。偉くなる、立派になる、という他者からの評価を優先させるのではなく、自分がやりたいと思うことに打ち込める自分になる、それこそが自分らしく生きることである。」

3. 百聞は一見にしかず



私は過去3回海外研修を引率したことがありましたが、それらは全てアメリカへの研修旅行でした。今回、初めてイギリスへの引率をさせていただきましたが、一番大きく違うところは、「ホンモノ感」であったと思います。ケンブリッジのサイエンスフェスティバル、アシュモレアン博物館、自然史博物館、大英博物館、どれもその規模、迫りに圧倒されるものばかりでした。たとえば言うなら、「資料集の中に入り込んだよう」な気分でした。(もう少し世界史や理科を勉強し直してから訪問したかった、と思いました。)大学の講義では、博物館を訪れて、実際に使用されたものを見ながら、話をするものも数多くあるそうです。実物を見ながら講義を受ければ学びが変わるだろうな、と羨ましく思いました。これだけのものを所蔵している博物館、そこにイギリスという国の歴史と伝統の重みと力を感じました。世界の学問の中心を訪れる。学習者として生きている生徒達にとって、意味のあることであつたと思います。

さて、少し生徒の成果について述べたいと思います。1年生ばかり24名で臨んだ今回の研修。出発前に「やっぱり2年生がいないと」などと言われたいよう絶対に成功させよう、と生徒に発破をかけました。彼らの頑張りが一番よく見えたのはクリス先生の授業でのプレゼンテーションでした。日本を出発する直前に、プレゼンテーションをすることだけを伝え、彼らは正直なところ何の準備もできずに大変だったと思います。しかし、直前まで協力して熱心に準備をし、立派にプレゼンテーションをやり遂げ、リスナーになっていただいた方々にも高評価をいただくことができました。



最後の講義の後、クリス先生に生徒達について次のようにコメントをしていただきました。「例年と違って、このメンバーにはリーダーがいない。だが、よくまとまったチームワークの良い生徒達である。」2年生のいない今回のメンバーの特徴をよく表していると思います。引っ張ってくれる先輩がいないことは彼らにとってデメリットであったかもしれませんが、それを補う形で協力し合うことができた。それがクリス先生に伝わったのだと思います。

今回の「生き様」研修が生徒達に果たした役割は、「種まき」だと思っています。これから待ち受ける厳しい社会の中で、自分が納得のいく人生を歩んでいくための「種」を彼らの心に蒔いた、私自身この研修の位置づけをそのように感じております。今後の学校生活、大人になってからの社会の中での生活、それぞれの過程を通じて、芽を出し、幹を伸ばし、いずれ大輪の花を咲かせられるよう、今回得た「種」を心の中で大事に育てて欲しいと思います。

最後になりますが、この研修のためにご尽力いただいた大栗校長先生、八木原副校長先生はじめ、ご協力いただいた前高の先生方、保護者の皆様、また事前指導をボランティアで行ってくれた本校ALTのクリス先生、本当にありがとうございました。そして、厳しい大人社会の代表者として前高生をリードし、真正面から前高生とぶつかり合ってくくださったISAの松井さんに深い感謝の念を申し上げます。ありがとうございました。